政策コメンテーター報告（第3回、意見照会期間：2014年10月24日～11月5日） 川出 真清：日本大学経済学部准教授

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		外需は欧州と中国情勢から期待できず、内需における購買力の構造的強化が最重要で、それには正規・非正規で取り扱い格差のある雇用慣行とそれを助長する社会保障と租税中心の財政構造の改革、主導的産業の育成による「期待の構造改革」が必要である。先の二本の矢で細る購買力を第三の矢の矢柄（構造）で再生すべき。なお、矢羽のような消費税率引き上げ先送りは短期的気休めになるが、その代償は税率引き上げ先送りの常習化と財政余力枯渇、最後は社会保障が支える購買力の消滅である。増税先送りで景気が維持できるとの短絡的誤解で限られた財政余力をさらに削り、将来に財政がすべきことを資金的に不可能にする失望を子孫に強いてはならない。
1	９月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び（正規比率の上昇を含め）や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ（設備投資計画の動向も含む） ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向（一時的要因を除いた実勢と期待物価） ⑤ マーケット（株価、為替、金利等）の動向	
地方創生・地域活性化		地方創生が都市・世界から地方への流れならば、地方からの一方通行的発信は間違っている。地方産業の大成には都市が持つ、多面的評価、再結合力、展開力が不可欠である。多面的評価を超えられなければ世界展開も難しく、アニメと神社のような異色の再結合、情報や実物を津々浦々に配達する展開力は都市にこそ比較優位がある。一方、都市の側も世界のフロンティアが眠る地方へ発掘に飛び込み日本全国を探求すべきだ。私は新潟に赴任していた際、眠った優れた資源（例えば、地酒や農産物）が、様々な理由で都市に出ないのを歯がゆく思った。生産量、リスク等の課題を都市の専門力で解決し、都市と地方の潜在的可能性を磨く環境づくりをすべきだ。
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身（自社）の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	
その他		為替は専門外のためコメントを控えるが、米国の量的緩和終了を受け、Jカーブ効果が効きにくい経済構造の理解を深め、政策対応することは、国内だけでなく国際的にも学術的教訓としても必要である。急激な円安で輸出数量が伸びないのは、輸入価格、国内外の生産構造、売り上げの分配構造など多岐にわたる企業の判断が原因と考えられ、新環境への対応が必要である。急激な円高再変動も視野に、貿易収支を長期的にも改善させ、貿易の波及効果を裾野の広いものにする方法を、国際経済学および産業組織論、経営学の各専門家にアンケートを取るなどして、国内の専門知を活用すべきである。
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	